

## Transducers'03

Transducers'03 ( The 12th International Conference on Solid-State Sensors, Actuators and Microsystems ) が、6月9日(月)~12日(木)に米国ボストン・Boston Marriott Copley Place にて開催されました。参加者は約1,100名で、一昨年の前回会議Transducers'01の約1,200名よりもやや人数が減っているものの、1,000名を超える規模は、全体として盛会でありました。参加者数が減った理由には、会議直前に流行したSARSへの感染の心配がありそうです。

発表件数は、全体会議4件、招待講演12件、口頭発表199件、ポスター発表271件の計486件、投稿論文数は960件で、採択率は48%でした。前回会議の発表件数が401件、投稿論文数が856件、採択率が47%なので、投稿論文数が増えた分、発表件数を増やしたものと思われます。また、投稿論文数は、'97: 641件、'99: 826件、'01: 854件に続いて増加の一途をたどっており、この点からはMEMS分野の研究がますます活発になってきていると言えます。会議は、初日の全体会議を除きパラレルセッション(4セッション同時進行)で行われましたが、いずれのセッションも満室に近いものでした。特に人気が高かったのは実用化に近い技術についてのセッションで、パッケージングやRF-MEMSのセッションでは立ち見が多く

見られました。

今回の国別の発表件数は、米国が192件と最も多く、次いで日本が89件、ドイツ32件でした。韓国がこれに次ぎ、台湾、中国などのアジア諸国からの発表も増え、MEMS研究の世界的な拡がりを感じました。また、分野別に見ると、発表件数が多かったのは流体関係でした。医療、バイオ、化学の分野での発表にも内容として流体とオーバーラップするものが多く、この分野における進展に著しいものがあります。この他、近年の傾向ではありますが、会議全体を通して、製品開発に係わる発表が非常に多くなってきています。今回はこの傾向がさらに一歩進んで、MEMS技術を実際に製品に適用するにあたっての現実的な課題とその対策という観点での発表が増えてきたような印象を受けました。

今回の開催地ボストンは、この会議の1981年第1回開催地であり、22年間かけて一巡し、ひと区切りの感があります。この間、研究内容は要素研究から製品開発に関わる研究へとウエイトが移ってきました。また、企業からの発表も増えてきています。全世界が産業界を含めて、MEMSの産業化に大きく向かっていると実感する会でした。

## ヨーロッパのファンドリー

2003年7月7日から7月11日にかけて、わが国のファンドリーサービスネットワーク構築発展に資することを目的とし、先行する欧州のファンドリーサービスの調査を行いました。

調査方法は、訪問とディスカッションによる直接情報収集とし、現場の生の声を収集してきました。訪問先は、ファンドリーを中心にしながらも、研究機関やデザインハウス、マーケティング・コンサルティング企業も含め、それぞれの関係から欧州のネットワークサービスの実情を浮き彫りにする多角的アプローチとしました。

調査の結果、海外のいくつかのファンドリーは、公的な研究機関からのスピノフにより創設されており、継続的に強いパートナーシップを築いていること、また、強いIPで中~少量のニッチマーケットを高い付加価値で攻める事業戦略を持つこと、さらに、多方面からの積極的投資を受け、すでに自主テーマ製品で事業が立ち上がっていること等が共通項として見出し、新たな産業の息吹きと熱意を感じることができました。

また、日本のファンドリーサービスの状況についても高い関心もたれ、将来のネットワークサービス構想についても大きな期待をいただきました。

(訪問先)

- Colibrys (ファンドリー)
- Neuchatel大学マイクロテクノロジー研究所 (研究開発)
- Yole Development (マーケティング)
- CEA-LETI (研究開発)
- Tronic s (ファンドリー)
- MST-Design (デザインハウス)



CEA - LETI ( Grenoble, France ) にて